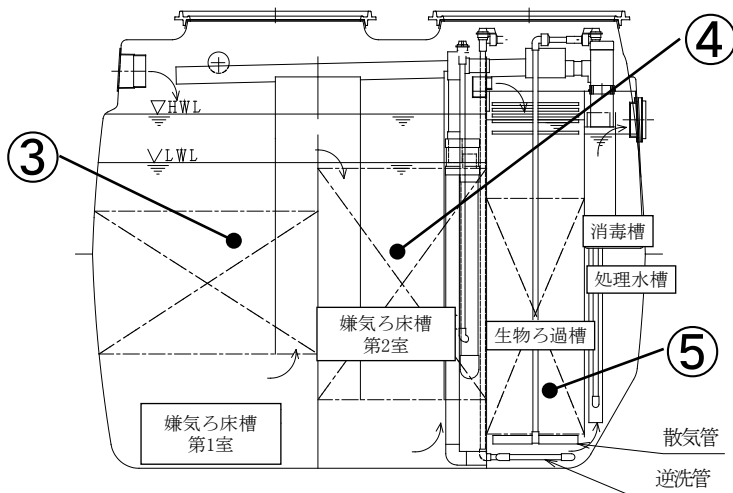
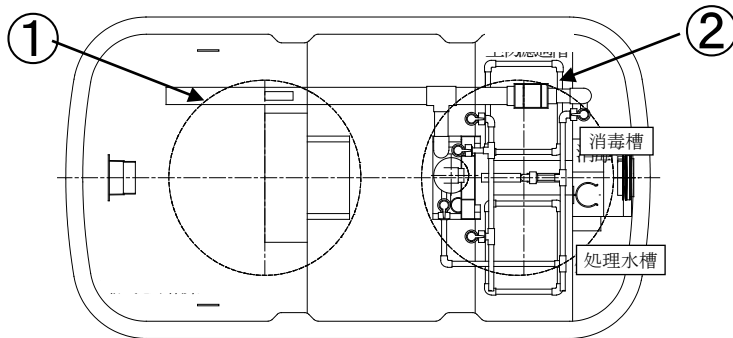
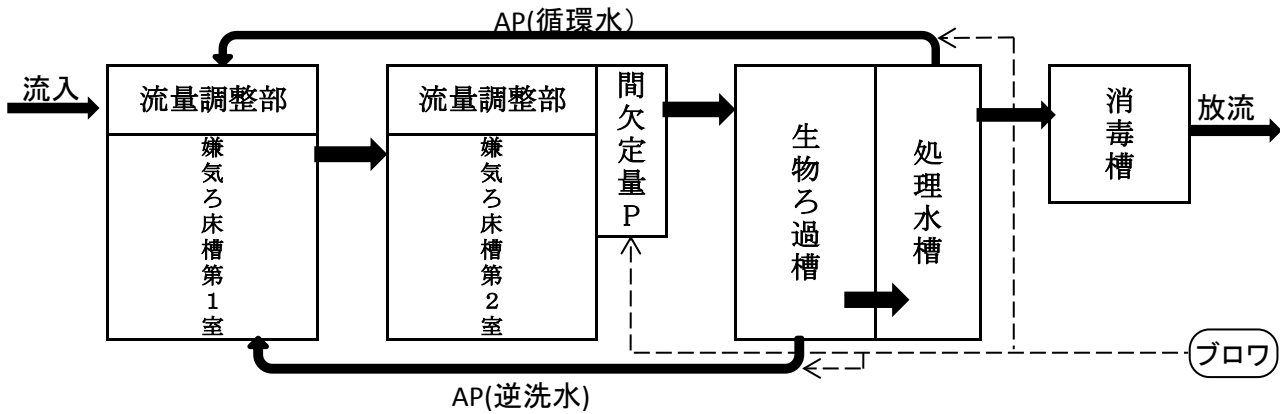


NSR フジクリーン工業(株)
 OEM: なし
 共同開発: なし
 処理方式: 流量調整型嫌気ろ床生物ろ過循環方式
 5・7・10人槽

BOD除去型

全浄協登録値

BOD	SS	T-N
20mg/L以下	—	—
性能評定または性能評価値		
BOD	SS	T-N
20mg/L以下	—	—



- ①嫌気ろ床槽第1室/第2室
- ②生物ろ過槽
- ③嫌気ろ床槽第1室ろ材
- ④嫌気ろ床槽第2室ろ材
- ⑤生物ろ過槽ろ材

有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	10人槽	
槽名	嫌気ろ床槽第1室	0.804	1.227	1.813	
	嫌気ろ床槽第2室	0.644	0.945	1.485	
	〈流量調整部〉		0.107	0.161	0.246
	生物ろ過槽	0.373	0.419	0.577	
	処理水槽	0.178		0.275	
	消毒槽			0.021	
合計		2.020	2.790	4.171	

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	第1室	400
	第2室	240

流量調整装置	流量調整バルブ 目盛(%)	循環装置	循環バルブ目盛(%)			循環可動 Vノッチ	逆洗バルブ 目盛(%)	逆洗移送用 バルブ目盛(%)	散気バルブ 目盛(%)
			5人	7人	10人				
有	80	有	40			有	100	50	50

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	エアリフト用 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期
5・7	70	70	?	5	2:00 3:00	2	1日
10	100	100	?	10			

[人槽に対する流調・循環水量の設定範囲]

人槽		5	7	10	
流調	定量移送水量 (ℓ/分)	H.W.L	7.0~7.5	7.0~7.5	14.2~15.4
		M.W.L	4.5~5.0	4.5~5.0	9.0~10.0
		L.W.L	1.9~2.3	1.9~2.3	3.8~4.6
循環	循環用水量 (ℓ/分)	H.W.L	3.2~3.6	4.0~4.4	6.4~7.2
		M.W.L	2.5~2.9	3.3~3.7	5.0~5.8
		L.W.L	1.9~2.3	2.7~3.1	3.8~4.6

・流量調整定量移送水量・循環水量は、(1)使用水量(日平均汚水量) (2)実使用人員、(3)人槽の優先順位で判断して上記の範囲になるように調整してください。

特 徴

嫌気ろ床槽 第1室、第2室はともに下向流である。第1室はヘチマ様円筒状ろ材、第2室は網様円筒状ろ材である。槽の上部には流量調整部を設け、水位が変動する。流出水はエアリフトポンプによって第2室から生物ろ過槽へ移送される。

生物ろ過槽 槽内は中央のドラフト板に仕切られており、両側面部分に小円筒状ろ材(φ16×L16mm)が充填され、中央部分に散気管が設置されている。通常ばっ気状態では槽内水は下向流となります。ろ材に付着した生物膜によるBOD除去に加え、ろ材によるろ過が進行する。生物ろ過部では閉塞防止のためタイマー制御にて逆洗を実施し、剥離汚泥をエアリフトポンプによって嫌気ろ床槽第1室に移送する。

処理水槽 槽内水は上向きに流れ、消毒槽へ流出する。一部の処理水は取水口よりエアリフトポンプにて嫌気ろ床槽第1室に循環される。

作業時のポイント

保守点検

- ①嫌気ろ床槽のスカム厚、堆積汚泥の状況、ろ材の閉塞が無いかを確認してください。流量調整部分水位の形跡(H.W.L・L.W.L)を確認してください。
- ②流量調整用エアリフトポンプのバルブ開度を点検する。1サイクルの時間と1回あたりの吐出水量を実測し1分あたりの移送水量を確認する。点検時毎回、空気配管途中のオリフィスを掃除しポンプの洗浄を行ってください。洗浄後は水量を再調整してください。
- ③生物ろ過槽の槽内水、流出水の性状及び底部汚泥の堆積状況を点検してください。水流が左右均等に流れるかの確認を行ってください。中央のドラフト板部分のDOはおおよそ3mg/ℓ以下とし、汚泥濃度や槽内水、流出水にSSが多い場合、手動逆洗を実施し、逆洗不足が認められた場合、逆洗頻度の増加を検討してください。
- ④ブローの稼働状況を確認時、あわせてブローのタイマーの現在時刻と自動逆洗の設定を確認してください。

清掃

- ①嫌気ろ床槽第1室は全量引き抜き、第2室及びその他単位装置は必要に応じて実施してください。